

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年11月30日

事業所名 こどもサポート はるかぜ

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			・主の活動時は中央フロア、クールダウンスペースは和室、と状況に合わせて活用している。	・空間仕切りが有効活用されていない状況もあり、安全に配慮しながら細かくスペースを区切り安心して過ごせる環境につなげたい。
	2	職員の配置数は適切である		○			・女性スタッフを早急に配置し、性別にかかわらず保護者さまお子さまにとっても安心できる人員を確保していきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		・出入り口については、スロープを設置している。	・トイレ空間においては2室あるもののスペースが十分とはいえずバリアフリー化を目指したい。また、テーブル高低についてもお子さまの身の丈に合った設備を整えていきたい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			・業務内容を明確にし詳細な時間設定しながら、業務バランスを見極めている。	・個々が受動的に行動できるよう、目標設定においてはPDCAサイクルと併せてセルフマネジメントをさらに進めたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				・今年度が初めてとなるが、改めて保護者さまからのご意向を認識できた。評価から改善に向けた業務改善を図っていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				・アンケートにも記載があった有効なツールとして幅広くホームページ活用していきたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		・外部評価については予算面も含め検討中だが、第三者による評価が業務改善に活かせるよう引き続き情報収集を行ってきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・支援の質向上のため、オンラインを用いた研修動画サービスを導入している。	・外部研修の機会を増やし、さらなる資質向上のベースアップを図りたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			・アセスメントも含め、課題分析においても年齢別スキルリストを用いている。	・支援対応方法まで保護者さまと密に連携を図りながら支援の統一性を目指したい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			・アセスメント時にもアンケート及びエピソードからより正確なアセスメントを心掛けている。	・Vineland Ⅲ 応用行動尺度を応用したアセスメントツールを導入しているが、十分に活用できていると言えず今後はより正確なアセスメントを行えるよう努めたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			・「わらい」と「目標」を毎活動時に設定するため、共有を前提としている。	・プログラムにおいても単一的な活動を避けるため、お子さまの意見も組み入れながら最適化を目指したい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			・興味を持てる範囲をステップアップで取り入れ、「楽しさ」の持続を意識しながらプログラム設定をしている。	・支援と併せて職員自身の特性も活かしながら、関わりを重視し「他者」に興味関心を持てる活動を継続していきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			・日常生活支援、余暇、社会性と複合的な要素で活動成果の判断をしている。	・インフォーマルな社会資源として地域を捉え、平日・休日・長期休暇と分け隔てなく包括的な支援を目指したい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			・小集団活動を主としているが、学習・製作活動においては個別課題に取り組んでいる。	・目標の細分化をすることできめ細やかな支援を目指し、個→集団→社会と個々の自立を見据え将来の可能性をより広げる個別計画書にしていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			・支援前には申し送りを行い、活動及び支援内容に関わらず幅広く共有事項を確認している。	・的確な役割分担を持ち、支援の質向上に努めていきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			・申し送り時には振り返りや気になる点を必ず確認するが、必要に応じて活動設定を変更するケースもあるほど柔軟に共有を図っている。	・客観性を持った的確な共有を行いながら、支援の質向上に努めていきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			・クラウド上でケース記録を作成している。またIDパスワードを指導員別に発行し、共有のし易さとセキュリティを図っている。	・事実記述と見解を分け、正確な記録を心掛けている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			・確実にお子さまのステップアップが図れるよう、提案も含めヒアリングを重視している。	・定められた時期だけでなく必要に応じた柔軟なモニタリングを行ってきたい。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○			・複合的な組合せで支援を実施しているが、週間利用回数についても考慮し、サービス形態として週1回の通所でも成果を持つ専門性を深めていきたい。	

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				・必要に応じて参画できる者を増やしていきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○			・情報共有は十分とはいえず、より連携を図ってきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○		・現在ご利用なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			・今後はより関係機関とも情報共有等の連携を図ってきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			○		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			・現状は地域散策や公園へ出向いた際の偶発的な交流が占めているため、障害の有無に関わらず多様な交流機会をさらに設けていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○		・今後はより関係機関とも情報共有等の連携を図ってきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			・連絡帳や申し伝えにて共通理解を図っている。	・ご家族との共有理解を深める発信を積極的に行ってきたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○			・ヒアリング時、特性に対応する声かけやツールを申し伝えているケースもありませんが個別対応やタイミングの統一性がなく、全ての保護者さまにとって必要なペアレント・トレーニングの機会を設けていきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				・より簡潔且つ明確な資料等も用いながら、分かりやすい説明に努めていきたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				・支援の質向上とともに、全スタッフの対応力もベースアップを図りながら保護者さまからの相談に幅広く対応していきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			・感染症対策を講じながら、情報交換・活動報告・支援方針等を行う場を設け連携を強化していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				・組織として適切に対応できる体制作りを見直しながら、迅速さに解決できるよう組織力を高めていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○			・情報発信を積極的に行いながら、保護者さまとも連携を強化していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○				・個人情報を守りながら、安心して通所できる事業所を継続していきたい。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				・個別に応じた伝達方法を行っているが、配慮を重ねながらより伝達できる工夫を行ってきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			・地域性をより深めながら発展的な開かれた事業運営に努めていきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○			・より分かりやすい周知を行いながら、安心して通所できる事業所作りを努めたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				・年2回の訓練以外にも活動時のテーマに設定し紙芝居等でも重要性を伝えるが、均等な機会とは言えず継続した取り組みが必要。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				・外部の虐待防止研修にも積極的に参加していきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○			・現在は身体拘束を必要とする対応が求められていない状況にあるが、体制についても整えていきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				・重篤なアレルギー反応があるお子さまは居ない状況にもあるが、管理者においてはエビデン研修実施済み。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				・ヒヤリハットの重要性を職員間で共有し、事例についても改善を図っている。